

AKAYA PROJECT

赤谷プロジェクト地域協議会 / (公財) 日本自然保護協会 / 林野庁関東森林管理局

赤谷の森だより

2018.8.1

vol. 38

『シラネアオイ』
この花に出会うと、
本当にここに来てよかったと思う



トピックス

赤谷の森でわかったこと
「イヌワシ狩場創出試験地の取り組み」

公益財団法人 日本自然保護協会 出島 誠一

● 地域と繋がる赤谷プロジェクト

赤谷プロジェクト地域協議会 石飛 誠

● みなかみ町は「木育」を推進しています。

エコパーク推進課
エコパーク推進グループリーダー 小池 俊弘

(撮影: 竹村 秀雄)

AKAYA no MORI

ミニ写真館

今回のテーマ 『野山を彩る花々(春~夏)』

(写真提供: サポーター竹村さん)



アヤメ



サラサドウダン



チダケサシ



ハクサンチドリ



ヤマユリ

赤谷の森で わかたこと



2017年11月に伐採を終えた第2次試験地



2017年11月4日第1次試験地内の獲物に向かって急降下するイヌワシ

「イヌワシ狩場創出試験地の取り組み」 イヌワシが狩りをする環境の 創出試験3年間（2014-2017）

赤谷の森では、森林の生物多様性の豊かさを指標する野生動物としてイヌワシのモニタリング調査を続けてきました。その調査結果をもとに、2014年9月から、人工林165haを対象として、イヌワシが狩りをする環境（以下、狩場）を創出するとともに、この地域本来の自然の森に還元する試験を進めています。

2015年9月に第1次試験地のスギ人工林2haの皆伐を行いました。この創出した狩場の効果を評価するために、伐採の1年前（2014年9月18日）からイヌワシの行動について調査しています。

その結果、2017年11月4日に、イヌワシが第1次試験地内の獲物に向かって急降下（狩行動）するのが初めて確認されました。また、第1次試験地周辺にイヌワシが出現した頻度（イヌワシが出現した時間／観察時間）は、伐採後の2年間、伐採前よりも顕著に高い状況が続いています。さらに、イヌワシが獲物を探す行動の回数は、伐採前の0回から伐採後の2年間増加を続けています。これらの結果から、第1次試験地がイヌワシの生息環境の質を向上させている可能性は高いと考えています。

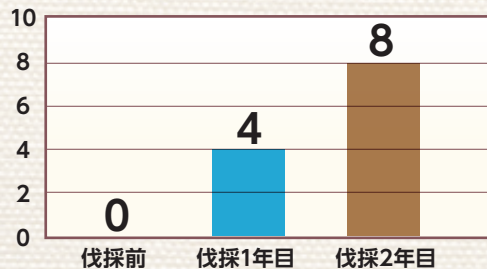
さらに、赤谷の森のイヌワシのつがいは、2016年に続いて2年連続で1羽の幼鳥を巣立たせたことを確認しました。2年連続の子育ての成功は10年振りのことです。第1次試験地が、どの程度子育てに効果があったかは明らかではありませんが、15年目を迎える赤谷プロジェクトの成果と言えます。

これらの結果を踏まえ、当初計画に基づき、2017年11月末に第2次試験地として約1haのスギ人工林の皆伐を実施しました。これは、楽天株式会社からの支援を受けて実現しました。

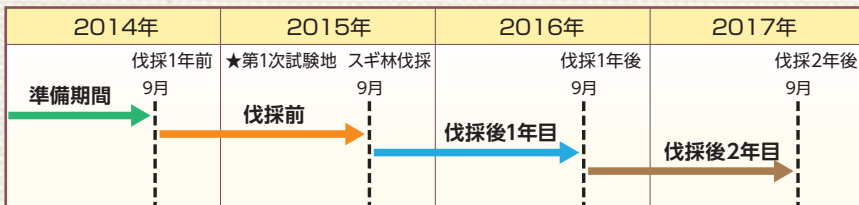
赤谷の森のこの成果は、宮城県南三陸地域で役立てられはじめています。南三陸地域では、かつて4つがいのイヌワシが生息していましたが、2008年頃から次々に消失し、現在では1つがいしか確認されていません。このような危機的な状況を何とか改善しようと、地元でイヌワシ調査を続けて来られた方々、民有林管理者、林野庁東北森林管理局、環境省、南三陸町が協力して、赤谷の森と同じように、人工林を皆伐することによってイヌワシの行動範囲内に一定面積の伐採地が継続的につくられるような森林管理をはじめようと準備を進めています。

今後も赤谷の森で、イヌワシの生息環境の質を向上させるための狩場の創出と、その効果のモニタリング調査を継続し、その成果が日本全国のイヌワシの保全に役立てられるよう発信を続けていきます。

イヌワシが第1次試験地の上空で獲物を探す行動をした回数



第1次試験地の設定とモニタリング調査



writer...



公益財団法人
日本自然保護協会

出島 誠一

地域と繋がる赤谷プロジェクト

赤谷プロジェクト地域協議会

石飛 誠さん



自己紹介と普段取り組んでいること(仕事含む)を教えてください。

はじめまして、赤谷プロジェクト地域協議会の石飛と申します。赤谷の森があるみなかみ町に千葉県から移住して5年目、妻と息子2人(中1・小3)の4人家族です。平日は近くの工場に勤務し、週末には山歩き・自転車・カヌーなど家族でよく出掛けます。赤谷の森自然散策も毎回違う発見があり楽しんでいます。昨年「自然観察指導員」の講習会を受講しまして、現在は時間を作ってはフィールドワークを重ねており、今後は赤谷の森や近くのフィールドでも伝える活動をしていきたいと考えています。

赤谷プロジェクト関係者と知り合った経緯を教えてください。

2014年5月に開催された「赤谷プロジェクト活動報告会」に参加し、具体的な活動内容の一部に触れ、そこで日本自然保護協会の出島さんにもお会いしました。

その後赤谷プロジェクトの活動には殆ど参加できずにいましたが、子供達の通う新治小学校では赤谷プロジェクトとの取り組みが盛んで、木育～未来へつなぐ森づくり～やイヌワシ観察会、赤谷の森自然散策などの活動に保護者として参加するようになりました。

それらがきっかけとなり、赤谷プロジェクト地域協議会に入りました。



今後、赤谷プロジェクト関係者と行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

まだ活動の日が浅いため、今のところ具体的な企画などはありませんが、今後赤谷の森での活動を通し、共に行ってみたいことが色々出てくると思います。その時は関係者と意見を交わし、より良い活動に繋げていければと思います。子供たちがもっともっと楽しめる場を作り、その保護者も巻き込んで活動の発展へと展開していければ理想かな?と考えています。



赤谷プロジェクトへ一言!(何でもOK!)

赤谷の森にヒル下がりのジョニーは必携ですね。(笑)

みなかみ町は「木育」を推進しています。

みなかみ町では、暮らしに木を取り入れることで、環境を守り、木の文化を伝え、経済の活性化や子どもの心を豊かにすることなどを目的とする「木育」を推進しています。

木育により、森と人との繋がりが、水源の町として森の大切さを伝えたり、地域産木材の利活用とカスタネットなどに代表される木工芸品や、木の文化や技術の伝承を推進することで、地場産業や林業の振興も期待できます。

また、子供の頃から木に親しむことで子供たちの感性豊かな心の発達が期待できることから、ウッドスタート宣言を行い、生まれてきた子供たちに木のおもちゃをプレゼントする誕生祝い品事業や、木のおもちゃを通じて木と親しむことを目的とした「木育キャラバン」(7月21・22日に新治小学校にて開催)なども行っています。

木育は、人と自然の共生を目指すユネスコエコパークの理念のもと、環境保全や環境教育、子育て支援や産業振興面にいるまで、広くまちづくりにかかわるものであり、みなかみユネスコエコパークの取組の柱の1つとして推進していきたいと考えています。

みなかみ町エコパーク推進課エコパーク推進グループ グループリーダー 小池 俊弘



木育キャラバンの様子



誕生祝い品



赤谷プロジェクトに関するイベント予定

赤谷の森自然散策(秋)

開催日: H30.10.27(土)

・詳細等は、準備ができ次第、赤谷センターウェブサイトに掲載いたします。



お知らせ

4月1日付け人事異動による新任者をお知らせします。

- 関東森林管理局計画課長 飯島 康夫
- 計画課企画官(自然再生) 入澤 和彦
- 計画課生態系保全係 田中 千晴
- 赤谷森林ふれあい推進センター所長 森内 賀久



色々な活動をしているよ!

赤谷プロジェクトの活動

トピックス



H30.3.4

ニホンジカ×鹿茸ワークショップ ～akaya cafe～
森林農法で作ったオーガニックコーヒーを飲みながら、鹿茸クラフト作りのワークショップが開催されました。



H30.4.8

イヌワシ狩場創出試験地糞粒調査
平成28年度に伐採したイヌワシ狩場創出1次試験地におけるノウサギの出没頻度を調べるため、糞粒調査を行いました。



H30.4.26

上毛高原駅に赤谷プロジェクト展示ブースを設置
5月期間中、みなかみ町の協力で上毛高原駅の展示ブースに赤谷プロジェクトの紹介を行うための展示ブースを設置しました。



H30.5.12

クロサンショウウオなどの卵塊調査 ～赤谷の日～
4月から5月にかけて、南ヶ谷湿地においてクロサンショウウオやモリアオガエルの卵塊調査を行いました。



H30.5.13

台湾大学による現地視察
台湾大学の研究者が視察に訪れ、小出俣林道沿いの、人工林を伐採して自然林に復元する試験地などを見学しました。



H30.5.14 他

高原千葉村「森の探検ウォークラリー」
高原千葉村に宿泊体験で訪れた千葉市内の中学校6校に、森林環境学習「森の探検ウォークラリー」を行いました。



H30.5.19

赤谷の森自然散策 (春)
ニリンソウやミツバツツジが咲く旧三国街道を散策し、旧道にまつわる歴史と民話の語り、イチゴ狩りなどの体験を楽しみました。



H30.5.20

放送大学面接授業 [現地実習]
小出俣林道を散策しながら、ブナ林の土壌と水の関係、多様な樹種からなる森の構造などを興味深く学習しました。



H30.6.13

自然環境モニタリング会議 [現地視察]
自然環境モニタリング会議の出席者が、会議の前にイヌワシ狩場創出試験地の現地視察を行いました。

赤谷プロジェクト、って?

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめずらしい取組です。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万 ha (10km四方)の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

※トピックスの詳細は

赤谷森林ふれあい推進センター

検索



赤谷プロジェクトサポーター募集! (たくさんの笑顔がまっています (^o^)/)



赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。活動の中で研修の機会を豊富に用意しているため、自然や野外活動の知識や経験がないと心配される方も、学びつつ活動に参加できます。

■お問合せ先

(公財)日本自然保護協会：松井・出島

赤谷プロジェクトについて詳しく知りたい方はこちらをご覧ください。

(公財)日本自然保護協会

<http://www.nacsj.or.jp/akaya/>

林野庁関東森林管理局赤谷森林ふれあい推進センター

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/

この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-25-8777

※森の恵みと学びの案内

理事(事務担当) 市毛 亮

メールアドレス m-ichige@takuminosato.or.jp

(公財)日本自然保護協会【NACS-J】

TEL 03-3553-4107

プロジェクト担当 松井 宏宇

<http://www.nacsj.or.jp/akaya/index.html>

メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局
赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 森内 賀久

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html

メールアドレス ks_akaya_postmaster@maff.go.jp